

裏磐梯の来訪者特性調査の結果 —2013 年度から 2016 年度の調査の結果—

福島大学 正会員 ○川崎興太

1. 調査の背景と目的

本稿は、2013 年度に試行的に実施し、2014 年度から本格的に実施しているアンケート調査の結果を分析することを通じて、福島県の代表的な観光地である裏磐梯の来訪者特性を明らかにすることを目的とするものである。

アンケート調査は、①裏磐梯ビジターセンターと裏磐梯サイトステーションの館内にあるテーブルの上にアンケート調査票を設置し、②それぞれの施設の来訪者に任意で回答してもらい、調査票を回収箱に投函してもらうという方法で実施した。調査期間は、2013 年度については5月30日から3月31日、2014年度と2015年度については4月1日から3月31日、2016年度は4月1日から1月31日である。回収数は、2013 年度は232 件、2014 年度は152 件、2015 年度は108 件、2016 年度は163 件である。

2. 裏磐梯の来訪者の特性

(1) 来訪者の属性

年齢と性別については、2013 年度から大きな変化はなく、「40 代」以上が約 6 割（図 1）、「女性」が約 6 割（図 2）である。居住地については、「関東地方」の割合が高まりつつあり、2016 年度では約 6 割である（図 3）。

(2) 裏磐梯への来訪目的

裏磐梯への来訪目的については、「観光」の割合が高まりつつあり、2016 年度では約 8 割である（図 4）。裏磐梯での観光の種類については、2013 年度から大きな変化はなく、「エコツーリズム」が約 1～2 割、「その他の観光」が約 7～8 割である（図 5）。

(3) 裏磐梯への旅行形態と同行者の種類と来訪人数

裏磐梯への旅行形態については、2014 年度から大きな変化はなく、「個人旅行」が約 8～9 割、「団体旅行」が約 1～2 割である（図 6）。裏磐梯への同行者の種類については、2013 年度から大きな変化はなく、「家族」が約 6 割である（図 7）。裏磐梯への来訪人数については、2013 年度から「10 人以上」の割合がわずかながら低下

するなど、小規模化の傾向が見られ、2016 年度では「2 人」と「3～5 人」が約 4 割である（図 8）。

(4) 裏磐梯への来訪回数

裏磐梯への来訪回数については、年度によって異なるが、2016 年度では「4 回目以上」が約 4 割、「はじめて」と「2～3 回目」が約 3 割である（図 9）。

(5) 裏磐梯への交通手段

裏磐梯への交通手段については、2013 年度から「自

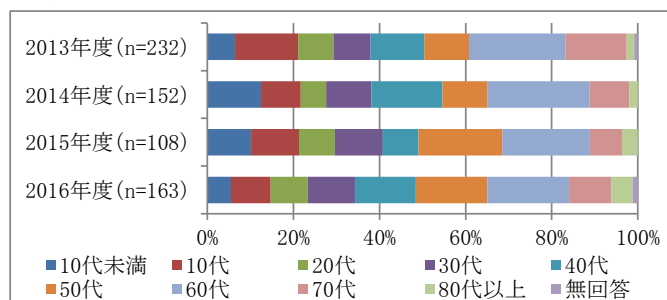


図 1 来訪者の年齢

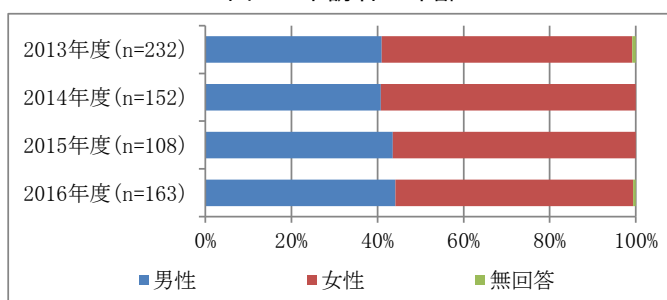


図 2 来訪者の性別

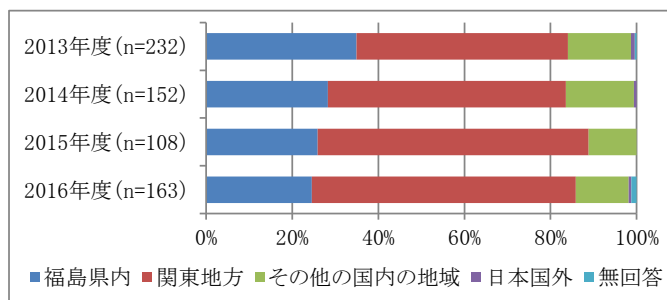


図 3 来訪者の居住地

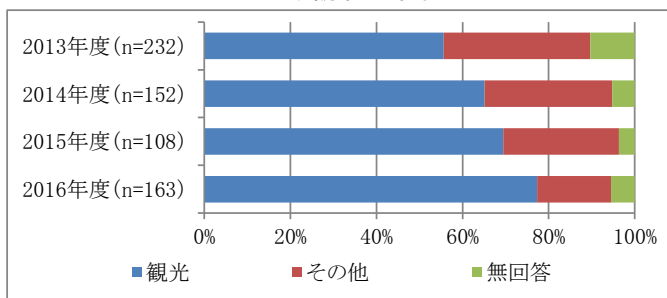


図 4 裏磐梯への来訪目的

キーワード 観光、来訪者、調査、裏磐梯、福島

連絡先 〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 番地 福島大学 共生システム理工学類 TEL. 024-548-8283

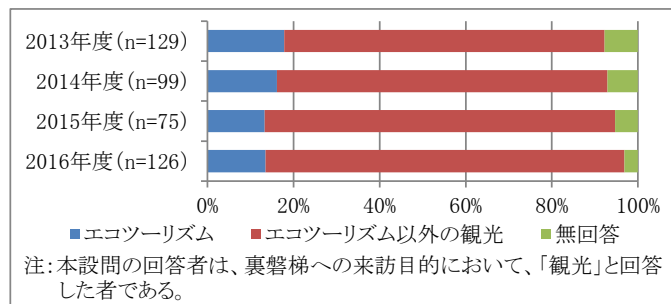


図5 裏磐梯での観光の種類

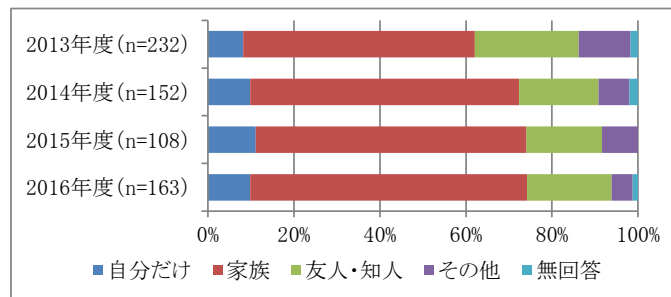


図7 裏磐梯への同行者の種類

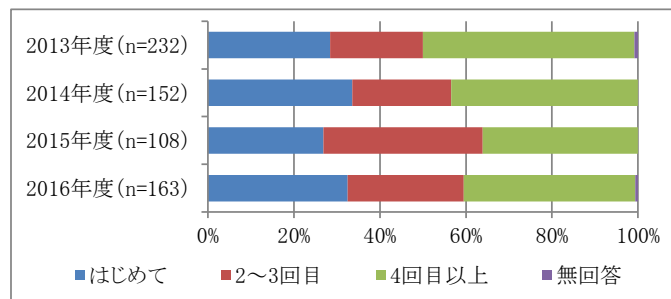


図9 裏磐梯への来訪回数

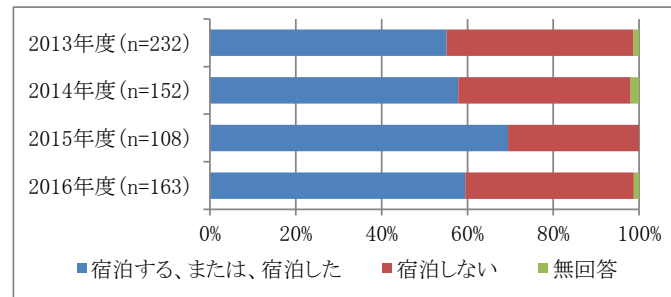


図11 裏磐梯での宿泊の有無

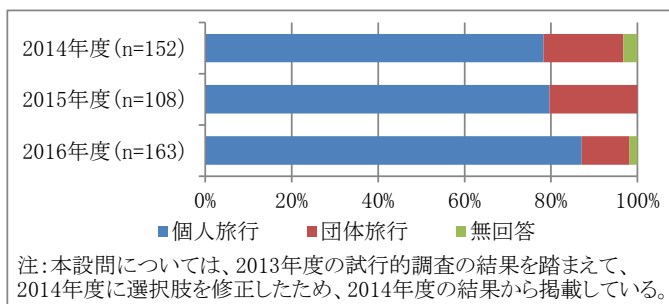


図6 裏磐梯への旅行形態

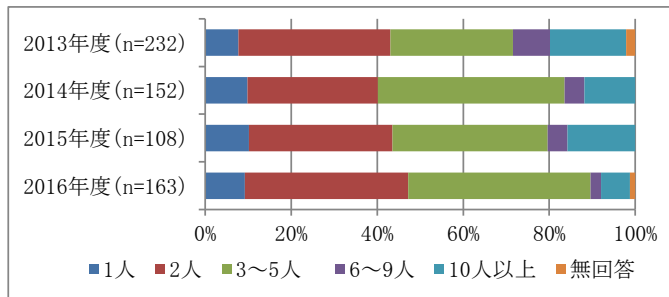


図8 裏磐梯への来訪人数

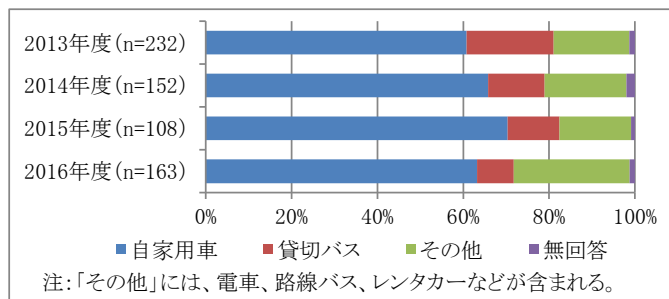


図10 裏磐梯への交通手段

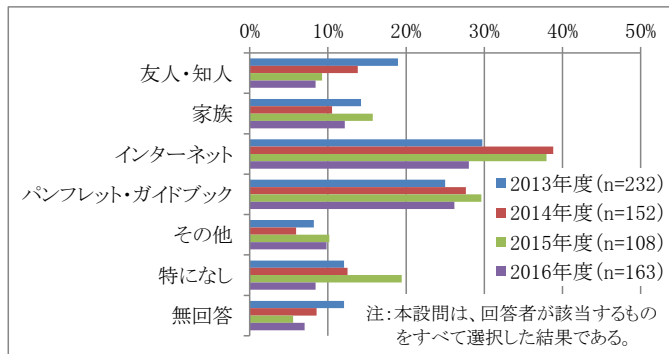


図12 裏磐梯に関する情報の入手方法

「自家用車」が約6~7割を占めるという点では大きな変化はないが、「貸切バス」の割合が低下しつつある(図10)。

(6) 裏磐梯での宿泊の有無

裏磐梯での宿泊の有無については、2013年度から大きな変化はなく、「宿泊する、または、宿泊した」が約6~7割である(図11)。

(7) 裏磐梯に関する情報の入手方法

裏磐梯に関する情報の入手方法については、2013年度から「インターネット」が約3~4割、「パンフレット・ガイドブック」が約3割で多いという点では大きな変化はない(図12)。

3. 結びにかえて

裏磐梯は、福島原発事故の発生に伴って、観光面で大きな被害を受けた。政府は、2016年を東北復興元年として、東北地方の観光復興に取り組んでいる。こうした取り組みの成果を検証するためにも、裏磐梯の来訪者の特性調査を継続的に進めていく必要がある。

【参考文献】

- 川崎興太 (2014) 「観光地・国立公園の来訪者の特性把握に向けた試行的調査の結果ー福島県の裏磐梯を対象としてー」『平成26年度土木学会全国大会 第69回年次学術講演会講演概要集 IV-120』239-240頁
- 川崎興太 (2016) 「五色沼自然探勝路の観光客の動向に関する研究ー福島第一原発事故の発生前後の来訪者の特性ー」『日本建築学会東北支部研究報告集 計画系 第79号』、149-154頁